

令和三年度徳島文理中学校前期入学試験問題

第一限 国語

(その一)

注意 解答欄は問題用紙の(その七)・(その八)にあります。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(ただし、問題の都合上、一部改変したところがあります。)

われわれは風景や花にふれて美しいと感じる。音楽を聞いたり、絵や彫刻を見たりしても美しさを感じる。自然のものであれ、人間の手の加わったものであれ、われわれはごく自然に美しいという感情を抱く。

同時に人間はみずから美しさを求め、つくりだそうとする。絵を描いたり、彫刻を彫ったりするだけではなく、着るものを選んだり、花を飾ったりというふうに、美しいものをすすんで生活にとりいれようとする。

人間はいつごろから美しさを意識するようになったのだろう。

南アフリカの洞窟からは、幾何学模様のギザ^⑦まれた七万五千年前の赤鉄鋼のかたまりが見つかっている。同じ洞窟からは、首飾りとして使われたらしい穴のあいた巻き貝の殻^{から}も見つかっている。そんな大昔から、人間には、生きるうえで、美しさというものを求めずにはいられない本能的な衝動^{しょうどう}が備わっていた。

A、なにを美しいと感じるかは、民族や地域や文化によっても、ずいぶんちがう。ぼくは一九九〇年代に八年ほどエジプトのカイロで暮らしたことがある。暮らしは始めるにあたって、アパートを探したり、生活に必要なニチヨウヒン^④をそろえたりした。そのたびに違和感^{いかん}をおぼえたのは、エジプトと日本の美的センスのちがいだった。

B、アパートのナイズウ^⑤――。

外国人が借りるのは、ほとんどが家具付きのアパートだ。しかし、せっかく間取りや場所は気に入っても、置いてある家具

になかなかはじめない。ヴェルサイユ宮殿^{きゆうでん}からもってきたかのような猫足^{ねこあし}のテーブル、パーティー会場のようなシャンデリア、金色に塗^ぬられた派手な枠付き^{わく}のかがみ^④。ピンクに金の花柄^{はなぐら}をあしらったベッドなど、イヨウなゴージャス感^⑤にあふれているのだ。

電化製品もそうだった。扇風機^{せんふうき}を買いに電気屋に行くと、店に並んでいる扇風機の羽の大半が金色である。ただでさえ暑いのに、金色の羽で送られてくる風なんて、いつそう暑苦しそうである。

妻が靴^{くつ}を買いに行っても、シンプルな黒のパンプスがない。金色のラインが何本も入っていたり、金ぴかのチョウチョの飾りがくつついていたりする。それがなければいいのにと彼女はいうのだが、エジプトの人にとっては、この金ぴかの飾りこそがチャームポイントなのである。

つまり、シックなもの、シンプルなものというのは、ここでは趣味^{しゅみ}のよいものとは見なされない。金づくしプラス、ヴェルサイユ宮殿風のロココ趣味、それがエジプトでは美の条件と見られていたのだ。さすが、ツタンカーメンの黄金のマスクの国だけある。国や文化が変われば、美的感覚は大きく異なるものだなあと感心したものだ。

C、それから三、四年ほどたったところだ。^②店で見かける電化製品や家具などの趣味が、明らかに変わってきたことに気づいた。

たとえば、数年前にはなかなか見つからなかった黒いシンプルな靴が目につくようになった。扇風機の羽も金色から、涼^{すず}しげな色のものが増えてきた。女性たちの化粧^{けしょう}も変化した。以前はエジプトで口紅といえ、たいいていショッキングピンクが派手な赤だったのが、シックなブラウン系の口紅をつけた女性を見かけるようになった。それでも日本と比べれば十分、派手でゴージャスなのだが、以前と比べると違和感は明らかに減った。

いえることは二つある。一つは、さっきもいったように、なにを美しいと感じるかは文化や地域によって、さまざまだということ。もう一つは、その感覚は絶対的なものではなくて、^③時代とともに、あるいは何かのきっかけがあれば「変わる」ということだ。

令和三年度徳島文理中学校前期入学試験問題

第一限 国語

(その二)

ただ、気になることもある。それはエジプトでも感じたように、美意識のちがいによる違和感が、世界的にだんだん薄^{うす}れてきていることだ。

X

㉦ しかし、エジプト人も、あるいはほかの国の人たちも、同じように「金色の羽は、ちよつと……」と感じるようになることが、本当にいいことなのだろうか。

㉧ むしろ「金色の羽はやっぱり美しい」と感じたり、あるいは「いや、扇風機の羽は赤にかぎる」「いや、緑だ」といった、さまざまな美意識があつていいのではないだろうか。

㉨ エジプトにしながら、シンプルな黒い靴や、涼しげな柄^{がら}の扇風機が手に入るのは、そこで生活していたばくたちにとつては歓迎すべきことだった。

㉩ けれども、それは逆にいえば、金色の扇風機の羽を美しいと感じる感覚がエジプトから失われることを意味する。日本人からすれば、「金色の羽は、ちよつと……」というのは平均的な感じ方だろう。

※ 現在はグローバリズムの浸透しんとうやテレビやネットなどの情報メディアの普及ふきゅうによって、世界中の価値観が徐々に似通じつよってきているように思う。先進国で美しいとされるものが、異なる文化や歴史を持つ国であっても美しいとされるようになってきているのである。

たとえば、ミス・ユニバースなどの美人コンテストで選ばれる「世界一の美女」というのは、明らかに欧米おうべいの美意識を基準に選ばれている。同様にシックなものやシンプルなものもいいというのも、欧米文化の中で、たまたま現在はそういう価値観が受け入れられているということである。しかし、その価値観だけが支配的になってしまふことは、そうでない見方を否定し、劣おとったものと見なししてしまうような暴力にも結びつきかねない。

美しさとはさまざまであり、しかも、それは変化する。こわいのは、そのダイナミックな感覚が失われ、ある特定のものを美しいと見なすような、こわばった見方に陥おちいってしまうことだ。あるいはその逆に、美しさはさまざまだからといって、自分の感じる美しさの中にとどまりつつづけることは、かえって世界の美しさを見落とすことにもなりかねない。

(田中真知『美しいをさがす旅にでよう』)

グローバリズム……ここでは「先進国化」を指す。

受 験 番 号

令和三年度徳島文理中学校前期入学試験問題

第一限 国 語

(その二)

問一 波線部㉑㉒のカタカナを漢字に改めなさい。

- ㉑ キザ (まれた) ㉒ ニチヨウヒン ㉓ ナイソウ ㉔ カガミ ㉕ イヨウ

問二 本文中の A ㉖ C ㉗ に入る適当な言葉を、次のア㉘オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を繰り返し用いてはなりません。

- ア ㉘ ところで イ ㉙ たとえば ウ ㉚ しかも エ ㉛ なぜなら オ ㉜ ところが

問三 傍線部①「エジプトと日本の美的センスのちがい」とあるが、どういうことか、六十字以内で説明しなさい。
(句読点は字数を含む。以下同じ。)

問四 傍線部②「店で見かける電化製品や家具などの趣味が、明らかに変わってきたことに気づいた」とあるが、扇風機はどう変わってきているのか、三十五字㉙四十字で説明しなさい。

問五 傍線部③「時代とともに、あるいは何かのきっかけがあれば『変わる』」とあるが、ここでは筆者は、何をきっかけとして美的感覚は変わっていると考えているのか、本文中から書き抜きなさい。

問六 本文中の④の中の⑦⑧⑨は、もとの文章と順番が入れ替わっています。もとの順序に並べかえなさい。

問七 太線部「その感覚は絶対的なものではなく」とあるが、特定の美的感覚だけが世界に浸透していくことに筆者は危機感を抱いています。その危機感とはどのようなことか、本文中の言葉を用いて答えなさい。

受験番号

令和三年度徳島文理中学校前期入学試験問題

第一限

国

語

(その四)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(ただし、問題の都合上、一部改変したところがあります。)

今のところ僕の手元にある、かわいそうなことリスト、のトップに挙げられているのはシロナガスクジラだ。その子とは社会科見学の時に行った自然史博物館で出会った。地面には置き場所がないから、まあ許してくれたまえ、とでもいう感じで天井から吊され、宙に浮いていた。しかも全身、骨だった。

「シロナガスクジラは地球上で最も大きな動物です。過去に絶滅したすべての動物を合わせても一番です。ここに展示している骨格標本は体長三十メートル、体重は百七十トンあります。食べ物はオキアミです。ニューファンドランド島の海岸に打ち上げられているところを発見されました」

博物館の人が説明してくれている間中ずっと、クラスの皆は「でか」「でかすぎ」「ありえない」とざわざわお喋りし、先生がいくら注意しても聞かなかった。

僕は黙って骨を見上げ、心の中でつぶやいた。

①「もう分かったよ。それ以上言うな。この子だって自分が大きいことくらい、よく分かっているよ」

だから本来ならばこの言葉を使いたくはないのだが、確かにシロナガスクジラは、大きかった。他に表現の仕様が思いつかなかった。

骨はちょうどいい具合に焼けたクッキーのような色をしていた。長持ちさせるために薬でも塗ってあるのか、時間が経てば自然とそうなるものなのか、表面は滑らかで、Aして見えた。体長の四分の一くらいを占める顎は、上下の骨が合わさって緩やかなカーブを描き、その付け根にある胸びれは人間の手とそっくりの形をし、あとは背骨がどこまでも長々と続くばかりだった。背骨を構成する骨たちは皆同じ形を持ちながら、先頭から最後尾まで大きさが少しずつ小さくなっていた。何もかもすべてが左右対称だった。大きすぎるせいで隅の方には規則が行き届いていない、などといういい加減なことにはなっていないかった。どの骨もお利口に自分の居場所を守っていた。

真下に立ち、どんなに目を見開いても、彼（僕は勝手に男の子だと思い込んでいる。どこの骨でそのところを見分けるのか、博物館の人は教えてくれなかった）のすべてを瞳に映すのは不可能だった。頭に焦点を合わせれば背骨が途切れ、尾まで網羅しようとすれば顎の先が視界から消えた。月でさえ丸ごと目に収まるのに、この子にはみ出してしまふのだった。

体長は十一階建てのビルに相当するとか、舌だけで象一頭分の重さがあるとか、博物館の人は相変わらず彼の巨大さを強調する話ばかりしていたが、月より大きいという自分の発見の方に僕は心奪われていた。そんな体を持って生まれる人生がどんなものなのか、僕には想像もできなかった。大勢の友だちと一緒にB楽しんだり、逆に岩陰に隠れてのんびり静かな時を過ごしたりする自由は与えられていない。これほどの存在感を持ちながら、小さな目の魚にとってはただの闇でしかないという矛盾を突きつけられている。自分の尾なのにそこは異国の地のように遠く、たとえ友だちになりたいと思っただけがそこを舐めて合図を送ってくれたとしても、返事が届くのは待ちくたびれて皆が立ち去ったあとだ。本当ならセイウチでもシャチでも一発でやつつけられるのに、遠慮して小さなオキアミしか食べない。自分で自分の体全体を見ようとしても自らの大きさに邪魔され、結局、自分がどんな生きものなのか知らないまま一生を終える。象やビルと比べられ、何かにつけ大きい一言でくぐられ、Cの果てには骨をさらされている。

令和三年度徳島文理中学校前期入学試験問題

第一限 国語

(その五)

もっと僕をいたたまれない気持ちにさせたのは、実物と同じ大きさで作られた心臓の模型だった。ゴム製のそれはくすんだ赤色をし、表面に凹凸^{おうとつ}があり、言うまでもなく十分に大きかった。動脈^④と静脈^⑤は人が悠々^{ゆうゆう}すり抜け^ぬられるくらいの太さがあつた。クラスメイトたちはピノキオにでもなった気分で心臓^⑥により登り、万歳^{ばんざい}をしたり腹ばいになったりして次々血管^{すべ}を滑り降りていった。僕は彼の心臓を遊び道具にすることなどとてもできず、尾びれの最後の骨の下にただ黙って立っていた。僕に気づいて声を掛けてくる友だちは一人もいなかった。

皆^{もく}が潜^{もぐ}り込むと、柔らかいゴムがC^⑦して、本当に心臓が動いているように見えた。ニューファンドランド島の海岸に打ち上げられ、人々から無遠慮に写真を撮^とられたり棒で突^つかれたりしながら、それでも弱ってゆく体でどうにか最後の鼓動^{こどう}を刻もうとしている心臓だった。

そのあと何^⑧を見学したのか、一つも覚えていない。本当はシロナガスクジラのそばにずっといたかったのだが、そんな勝手が許されるはずもなく、先生に促^{うなが}されるまま列の最後にくっついて歩いた。でも心の中はあの子でいっぱいだった。目には入りきらないけれど、心の中には顎から尾まで全部が収まった。そのうえ吊された骨ではなく、海にいた時と同じ、肉も鰭^{ひれ}も噴気孔^{ふんきこう}もついた本当の姿^{もじ}に戻^{もど}っていた。

☆地図も持たずに君は、尾びれを振り上げ、背骨をしならせ、僕の中を泳いでゆく。きっと賢い君だけに見分けられる印があるのだろう。ちっとも迷ったりしない。小さな魚たちを驚かせないよう、動きはあくまでもゆったりしている。海流が君のすべすべした体を包んでいる。他の誰も真似できない雄大な移動が為されているとはとても信じられないくらいに、あたりは静けさで満たされている。

もし神様が「順番に並んで」と号令をかけたなら、一番に返事をして先頭に立たなければならないのは君だ。勇気あるものにしかな務まらない役目だ。絶滅した動物たちを動員してもなお、君の代わりになれるものはいない。全世界を従え、月にも優る尊さを内に秘め、最も強い風を受けながら、たった一人耐えている闘士。それが君なんだ。

（小川洋子「かわいそうなこと」）

受 験 番 号

令和三年度徳島文理中学校前期入学試験問題

第一 限 国 語

(その十八)

問一 波線部㊦㊧の漢字の読みを記しなさい。

- ㊦ 仕様 ㊧ 利口 ㊨ 合図 ㊩ 挙句 ㊪ 静脈

問二 本文中の A C に入る適当な言葉を、次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア もごもご イ せかせか ウ わいわい エ ひそひそ オ てかてか

問三 傍線部①「もう分かったよ。それ以上言うな」とあるが「僕」が心中でこのような強い口調の言葉を発したのは「僕」のどんな気持ちによるものか。本文中から十字以内で書き抜きなさい。

問四 傍線部②「月より大きい」とあるが、「僕」は「シロナガスクジラ」の体だけではなく何が大きいと考えているのか。本文中より書き抜きなさい。

問五 傍線部③「何を見学したのか、一つも覚えていない」とあるが、それはなぜか。三十字以内で答えなさい。

問六 次の文章は、本文中の☆印がついている段落の文章の特徴とその表現効果について述べたものです。その文章中の空欄（ア）・（イ）に、互いに反対の意味になる漢字二字の語を書きなさい。また、空欄（ウ）にあてはまる本文中の語句を五字以内で書き抜きなさい。

＊ 本文全体は（ア）形で書かれているが、この段落だけは（イ）形が使われている。そうすることによって、描かれている情景が（イ）の「僕」の（ウ）に生き生きと思ひ浮かべられていることが表現されている。

問七 太線部「かわいそうなこと」とあるが、「僕」にとっては「シロナガスクジラ」がどのような点で「かわいそう」だと思えるのか。四十五字以内で答えなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「僕」はシロナガスクジラの体の巨大さに以前から興味があり、今回またさらに愛着を持った。
- イ 「僕」はシロナガスクジラをはしゃいで見ているクラスメイトを見て、耐えられずに注意した。
- ウ 「僕」はシロナガスクジラを「彼」と呼んでいるが、その性別を見分けることができなかった。
- エ 「僕」はシロナガスクジラの体中に入り込んで、できることならば遊んで楽しんでみたかった。

受 験 番 号

第一限

語

(その七)

問一	ア	(ま れ た)	イ		ウ		エ		オ	

(まれた)

ウ

才

問二	
A	
B	
C	

B

C

[illegible]

問七

問六

↓

↓

↓

問五

問四

[illegible]

受 験 番 号

第一限

語

(その八)

問
一
(ア)
(イ)
(ウ)
(エ)
(オ)

問二	
A	
B	
C	

[illegible]

